

長門湯守 株式会社

第一回 事業内容・進捗状況説明会

本日の流れ

- ① 恩湯事業の基本コンセプト
- ② 恩湯の構想
- ③ 飲食事業の構想
- ④ ワークショップ
(グループ会議+グループ発表)
- ⑤ 質疑応答
- ⑥ ちょいバイトちょい飲み構想のご案内
- ⑦ 最後に

私たちについて



伊藤就一

玉仙閣 専務取締役

老舗旅館の後継者として、湯本に生まれ育ったものとして、恩湯事業とまちの活性化に強い想いを持つ。長年の旅館業務に加え、旅館組合青年部の中心人物として、まちの活性化に力を注いでいる。



大谷和弘

大谷山荘 専務取締役

伊藤氏とともに長門湯本温泉の歴史と文化を深く愛する老舗旅館の後継者。別邸音信の立ち上げ、サービスの向上など、自らが培った経験を生かして、恩湯の継続と発展に強い想いを持つ。



青村雅子

Homey 代表取締役

やきとりの名店ちくぜんを始め、市内外で複数の事業を展開する長門市を代表する女性起業家。湯本湯侍のルーツを持ち、長門湯本温泉の活性化を強く願う。



ファンタス

長門市在住のデザイナー白石慎一が代表を務めるweb, グラフィックの株式会社。cafe&pottery 音の立ち上げを通じ、伊藤氏、大谷氏の地域への熱い想いに打たれ参加を決意。

施設的设计

設計事務所岡昇平 + 田村設計室



香川県高松市の日帰り温泉施設「仏生山温泉」をはじめ、瀬戸内国際芸術祭での屋外会場・展示など、総合的なランドスケープを考慮した魅力的な建築を設計。仏生山温泉の代表としても運営を担う岡氏は、「まちぐるみ旅館」の概念で、エリア全体を魅力あるコンテンツとして育んでいる。

事業範囲ごとの考え方

恩湯事業

神授の湯：神性を肌で感じる
固有の入浴体験

古代より岩の割れ目から湧き出ている温泉こそ唯一無二の自然資本

現代の居心地の良さを追求した
大らかな浴場として活用



礼湯 低温泉源 の活用

礼湯は本来、毛利藩主、大寧寺の僧侶、身分の高い方々が入浴されていた由緒ある場所。

神聖な温泉という認識のもとに
住吉神社利用促進に寄与していく
仕掛け作りを行う。



飲食物販事業

焼き鳥の街、長門市で生産される鶏肉を主軸に、地域の食材を使用

ランチメニューはお重で提供し食べ歩きのためのテイクアウトも充実

既存旅館の宿泊プランへの食事提供や割引等の連携



広場活用事業

イベント用の広場インフラ整備や備品倉庫等の設備も検討

まちの魅力を掘り下げる文化体験シーズナリティの平準化に寄与

シニア人材の活用。既存事業や行事全体のクオリティコントロール



川床・置き座事業

食事や休憩を楽しめるだけでなく新しいサービスも検討

地元の飲食店や旅館と連携し、ドリンクや食事のデリバリーなどの連携

インフラ面では、電源と高速WiFi環境も完備するため行政と連携



～事業コンセプト～



人

川

温泉

空間

～ 私たちの想いと覚悟～

先祖から受け継がれた恩恵



長門湯守 = 地元事業者 + 現生活者

長門湯守事業 コンセプト

“湯本らしい暮らしの集積から、
生活文化の創造へ”



生活者（住民・従業員・事業者・移住者）が楽しめる
生活文化の創出と循環経済の創出
（ちょいバイト、ちょい飲み）



川を介したコミュニケーションのあり方を問う温泉地
パブリック空間として拓けた温泉地



女性が楽しめる長門湯本の歴史に基づいた古代的温泉



川・温泉・広場・飲食棟をひとつながりの空間として
設計・運営、世界に通用する長門湯本のスモールエリ
アの創造

～達成したい事業効果～

来街者の増加

環境のもつポテンシャルを
最大限活かした、まちづくり

高齢者の働く場と 新規移住者・事業者

温泉・飲食・イベント事業を展開

移住者・事業者の増加

空き家のリノベーション

自立したまちづくり

まちは、生活者がつくっていくものとして
問題意識をもった町との関わり

広場・パブリック空間活用の構想

～ 文化体験 ～

周囲の自然や伝統を楽しみながら学べる場所の提供を行い地域の文化継承者達と連携し、茶道、花道、萩焼体験などのワークショップやイベントを開催するまちの魅力を掘り下げる。

- ・ 周辺の草木を学ぶ生け花教室
- ・ 深川窯若手作家との土いじり体験
- ・ 大寧寺での湯本の歴史学校など。



～ 休む・佇む空間 ～

音信川という固有の自然の圧倒的なパブリック空間を最大限活かし、縦横無尽に活用されている姿こそがどこにもないシンボリックな風景になる。

- ・ 地元生活者が「楽しんでいる風景」
- ・ 来街者の「のびのびしている風景」
- ・ 川沿いの「ビジネスミーティング風景」



長門湯守は、自然資本である温泉、音信川の環境を尊重し、生活者の暮らしの喜びに即した固有のまちづくりを目指します。



恩湯事業の構想

～ 恩 湯 ～

森－広場－温泉－川をひとつながりの空間として捉える

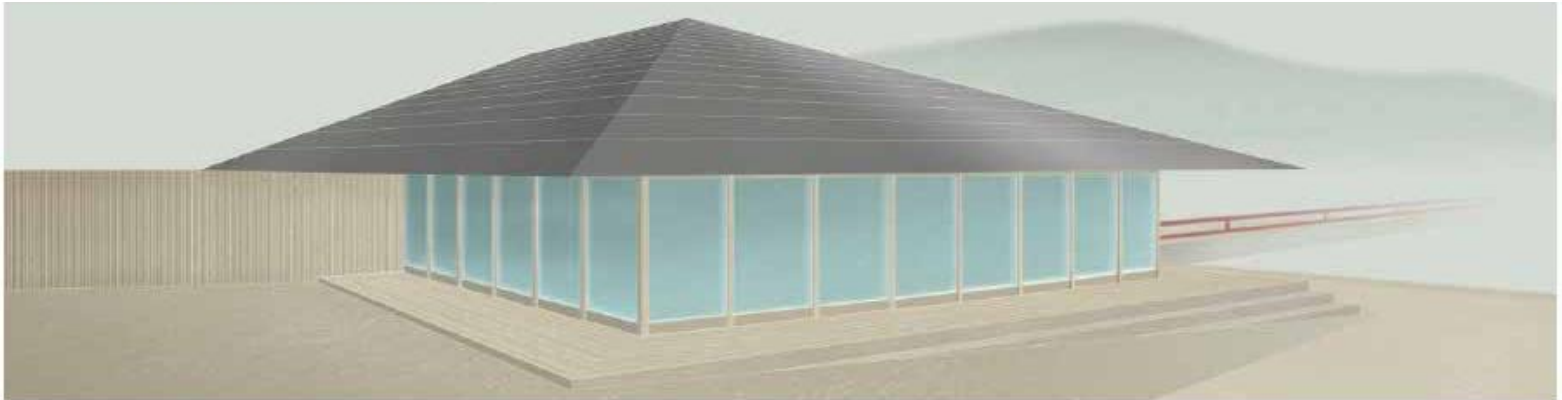
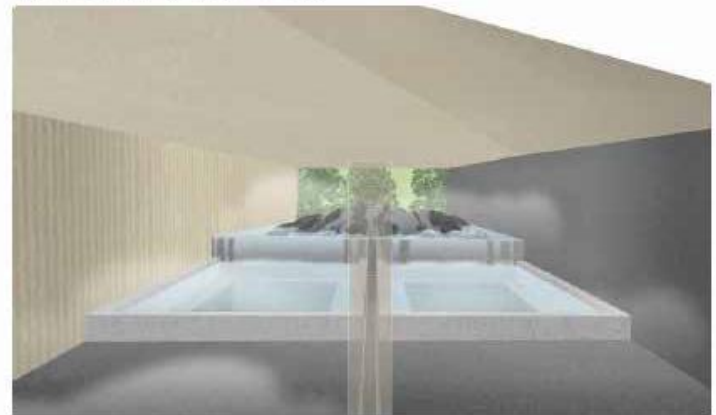
住吉神社のふもとから湧出する神聖な温泉

湯船へとつながる長い廊下を参道に見立てる

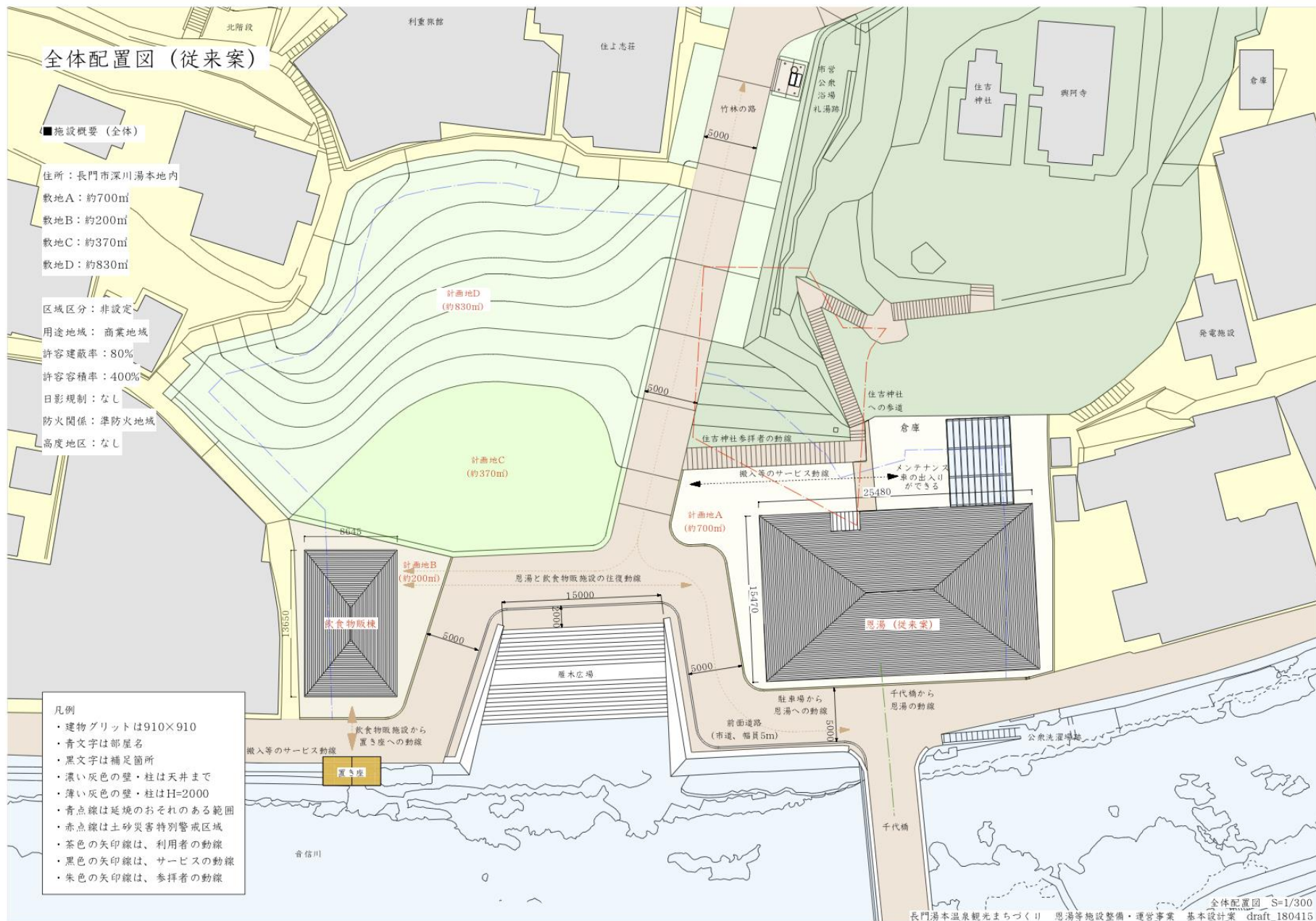
自然湧出・岩盤をそのまま見せる

源泉掛け流し

音信川の音と 森の香りを感じる



全体配置図



恩湯

恩湯 従来案

■施設概要（恩湯）

住所：長門市深川湯本地内 計画地A

敷地面積：約700㎡

区域区分：非設定

用途地域：商業地域

許容建蔽率：80%

許容容積率：400%

日影規制：なし

防火関係：準防火地域

高度地区：なし

用途：公衆浴場

最高高さ：6.35m

階数：地上1階建て

構造：木造

延床面積：310.75㎡（縁側除く）

凡例

- ・建物グリッドは910×910
- ・青文字は部屋名
- ・黒文字は補足箇所
- ・濃い灰色の壁・柱は天井まで
- ・薄い灰色の壁・柱はH=2000
- ・青点線は延焼のおそれのある範囲
- ・赤点線は土砂災害特別警戒区域
- ・茶色の矢印線は、利用者の動線
- ・黒色の矢印線は、サービスの動線
- ・朱色の矢印線は、参拝者の動線

駐車場から
恩湯への動線



千代橋の中心と
参道を結んだ軸線

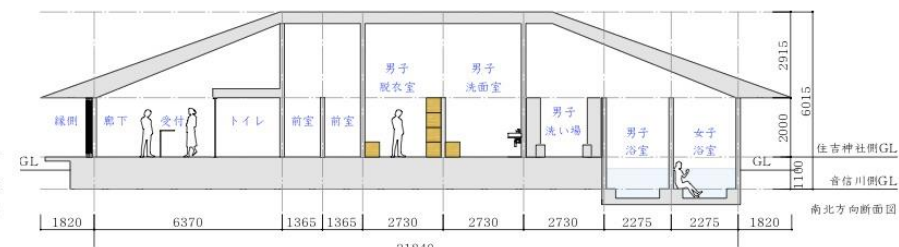
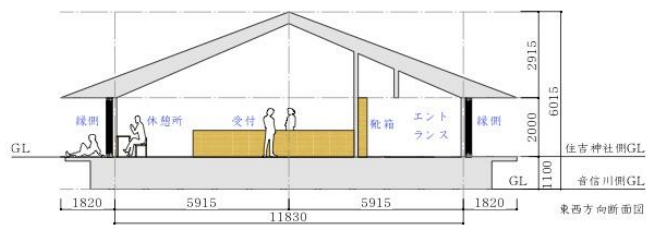
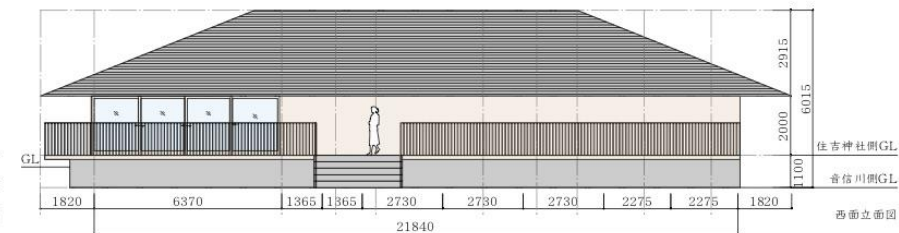
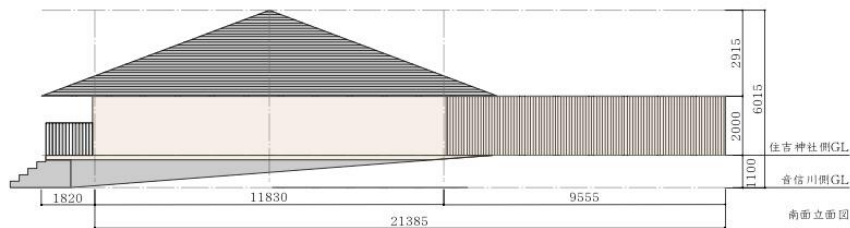
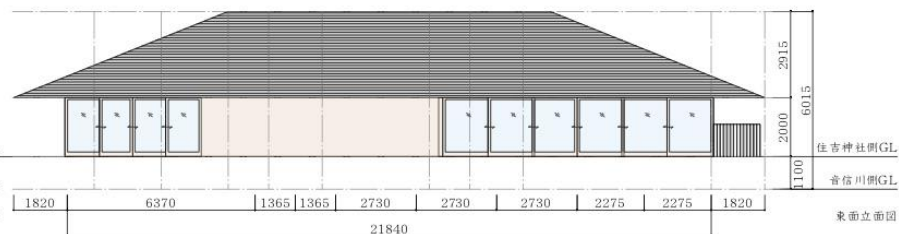
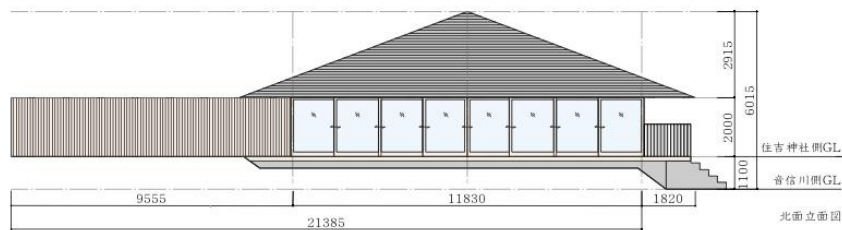
昇降場
置き換え検討中

恩湯の平面図兼周囲外構図 S=1/100

長門湯本温泉観光まちづくり 恩湯等施設整備・運営事業 基本設計案 draft_180413

恩湯

恩湯 従来案



飲食物販施設

飲食物販施設 従来案の調整

■施設概要（飲食物販施設）

住所：長門市深川湯本地内 計画地B
敷地面積：約200㎡
区域区分：非設定
用途地域：商業地域
許容建蔽率：80%
許容容積率：400%
日影規制：なし
防火関係：準防火地域
高度地区：なし

用途：公衆浴場
最高高さ：4.53m
階数：地上1階建て
構造：木造

建築面積：77.57㎡
延床面積：51.75㎡
設計建蔽率：38.78%
設計容積率：25.87%



思湯、駐車場からの動線

飲食物販施設から置き座への動線

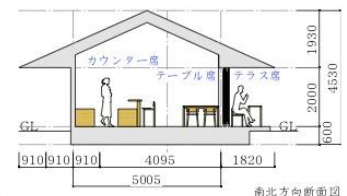
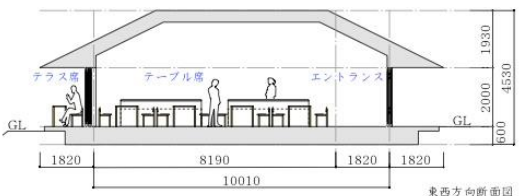
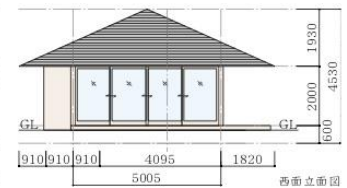
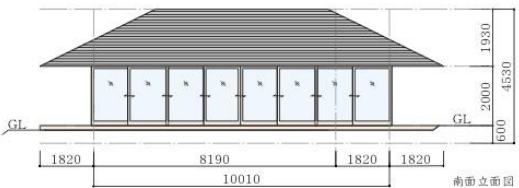
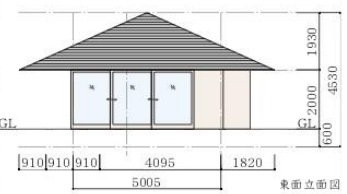
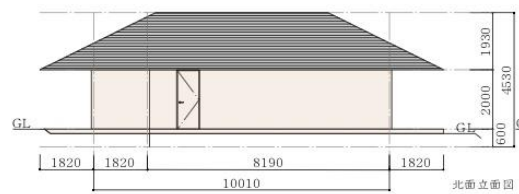
搬入等のサービス動線

前道路（市道、幅員5m）

- 凡例
- ・建物グリッドは910×910
 - ・青文字は部屋名
 - ・黒文字は補足箇所
 - ・濃い灰色の壁・柱は天井まで
 - ・薄い灰色の壁・柱はH=2000
 - ・青点線は延焼のおそれのある範囲
 - ・赤点線は土砂災害特別警戒区域
 - ・茶色の矢印線は、利用者の動線
 - ・黒色の矢印線は、サービスの動線
 - ・朱色の矢印線は、参拝者の動線



飲食物販施設の平面図兼周囲構図 S=1/100



飲食事業の構想

飲食事業のコンセプト

“長門の鶏料理が楽しめる専門店”

心と身体に優しいお料理

家族連れが楽しめる料理

ターゲット

- ・女性40代～60代
- ・地元
- ・観光客（宿泊施設に協力して頂く）
- ・お昼のスイーツを充実させて、20代、30代の女性にも温泉を楽しんでもらう

メニュー

鶏料理

【昼】

- ・ 週か日替ランチで親子丼やカオマンガイなどを提供
 - ・ 鶏のひつまぶし
 - ・ 鳥料理膳(弁当)
 - ・ 唐揚げ(タンドリーチキン)
 - ・ 鶏蕎麦

メニュー
鶏料理
【夜】

鶏の各部位の特徴を生かしたメニュー

鳥の挽肉 → 冷奴・茶碗蒸し・つくね

鳥の皮 → 鳥の皮のパリパリサラダ

砂ずり・胸肉 → ハム

レバー → レバーペースト

鳥のモモ肉 → 油淋鶏・季節野菜と鶏肉のソテー
など。

(鶏の部位のおすすめメニューも季節ごとに変わる)

鳥丸ごと一羽楽しめる料理のコースも提供

メニュー

鶏料理

【川床など屋外でも楽しめる料理】

鶏鍋

参鶏湯

つくね鍋

鳥焼きそば

～ そぞろ歩き・食べ歩き～

竹林の階段から広場－恩湯－川をひとつながりの空間として演出
川床・置き座を含めた開かれた水辺の演出と充実したイベント開催
飲食物販事業のハイクオリティなテイクアウトメニューを提供
地域商店の食べ歩きメニューの開発を協力



オープンまでのスケジュール

施設設計：平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

工事：平成 31 年 4 月～9 月

竣工：平成 31 年 10 月

開業：平成 31 年 11 月

ファン獲得とリピーター造成

地域連携と循環経済

ワークショップ

“湯守事業への質問・要望・コメント”

①グループワークにて意見交換

②グループ内で集約

③グループ発表

質疑応答

湯本における小さな循環経済の創出
ちよいバイト・ちよい飲み構想のご案内

目指していきたい姿

- 長門湯本という場所の文化を醸成する中核要素として、生活者（住民・従業員・事業者・移住者）が、まちと関わり、コミュニティを頼り・頼られ、場所を楽しむ姿を生み出していくことを目指す。
- このために、固有の生活文化に結び付く資源である「温泉」や「川」を中心にしながら、「ちょいバイトちょい飲み」の仕組みを創出していきたい。

（運営）

- 社会的な役割を、エリア運営の中で果たすことができる仕組み

× ボランティアのみに頼った運営

（参加意義）

- 活躍が適正に評価される
- 参加自体がやりがいになる

× 返礼をもらうことが目的化した参加
× 返礼がコミュニティと結び付かない
（☆1等ハワイ旅行☆みたいな）

（仕組み）

- 中心は生活者の参加と生活者の楽しみ
- ただし、閉鎖的でない、オープンな参画を受け入れる仕組み
- コミュニティの理念に共感した人の参画

× 地元の知り合い以外は参加しにくい雰囲気
× 一定の実績や専門性がないと入れない敷居の高さ

ちよいバイト・ちよい飲み構想を進めていくにあたって

別途・個別ヒアリングを実施いたしますので、
ご協力をよろしく願いいたします。

最後に

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、
ありがとうございました。

今後とも、長門湯守は定期的に説明会、意見交換の場を持ち、進めてまいります。

引き続き、皆さまのご指導、ご鞭撻のほど、
よろしくお願いいたします。